

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内害問わず散歩を積極的に行っている。また外出レクを通じて四季を感じてもらい普段は出かけない場所へも行けるよう配慮している	周辺には茶畑や田畑もあり、広い敷地内には、多くの花や木々が植えられ、四季を感じながらの散歩やテーブルを持ち出しお茶会をしたり、日常的な外出の支援に努めている。季節の花見等の外出行事も実施されている。今年は、家族参加の行事を計画しているところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクや買い物の際にお小遣いから買い物を楽しんでいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての部屋に電話を引くことができる。最近では携帯電話を持ち込み家族等自ら連絡を取れるようにしている入居者もいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の差し込む居間では日向ぼっこができる椅子やマッサージも行なえるよう配慮し居心地の良い空間を気がけて作るようにしている。	中庭から光が差し込む居間には、椅子やマッサージ機が置かれ、居室に籠りがちにならないようにと日向ぼっこを楽しんだり、ゆっくりとくつろげる工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が近くに座れるよう座席の配置を考えている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具等持参する入居者もいる。廊下に面した外扉と内扉を配置してプライベートなスペースとして住みやすくなるよう配慮している	各居室には内扉を配置し、プライベートに配慮されており、タンス等、馴染みの品々が持ち込まれ、思い出の写真が飾られたり生活感のある空間となっている。テーブルで毎日、新聞を読まれる方もおられ本人の生活のこだわりにも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し部屋を間違えないようにしている		